

かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 14 No 10

159号

平成18年10月1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

日本外来小児科学会に参加して 院長

今月は恒例となった学会の参加の話をしましょう。9月1～2日は学会参加のために休診し、御迷惑をおかけしました。小児科の開業医の先生が中心で、全国から2000人以上の参加者が集まります。普通、学会というと医師だけの集まりなのですが、日本外来小児科学会には看護師や薬剤師、事務スタッフなどが参加できる珍しいものです。今年は、横浜での開催となりました。

看護スタッフの佐藤君が発表するので、全員で参加しました。自分は日本外来小児科学会の役員なので金曜日から2泊3日、スタッフは土曜日から1泊2日の予定でした。

日頃の行いが悪いせいか、初日から大きなトラブル(?)に見舞われました。学会で事前に予約を取っていたホテルでチェックインすると、どうも予約が入っていないとのこと。手配して頂いた先生の予約はしっかり入っていたため、何かの手違いではないかとフロントの前で粘ること30分。すったもんだしたあげく、なんとか部屋を確保。待っていた家内は不満げに。やっと部屋に着いて荷物の整理を。宿泊カードをみると1泊2日。フロントに問い合わせで2泊であれば部屋を移動して欲しいと。家内の顔はますます不機嫌に。折角開いた荷物をまとめ、もう一度別の部屋に移動。部屋に着きこれでやっと安心と思った途端、フロントから悪夢のような電話。「お客様の御予約になったホテルは隣の〇〇ホテルでした」と。もう頭の中は真っ白、恥ずかしさのあまりフロントへの挨拶もそこそこに〇〇ホテルに移動。歩いてすぐの場所にもかかわらず、無理してタクシーに乗ってしまいました。十分な確認をしなかった罰でした。本当に「思い込みは怖い」エピソードでした。信じられないでしょうが(?)、院長はそんな一面も持ち合わせているのです。

今回の学会の発表は、昨年同様ポスターセッションでした。ポスターセッションとは、発表内容をポスターにして掲示して、決められた時間に説明をします。2日朝にポス

ターを貼って、夕方
が発表の時間でした。
発表した題名は
「クリニックにおけ
るリスクマネジメン
ト-リスクマネジメン
トノートの効用-」
で、クリニック内
で起きるミスをいか



にして少なくして、大きな問題となるのを防ぐかという内容です。クリニック内でも小さなミスは起ります。例えばカルテの出し間違い、呼び入れの順番の違い、予防接種の種類確認の間違い、カルテの記載間違いなど様々です。このような小さなミスを放っておけば、何れ医療過誤(医療ミス)のような大きな問題に発展していくかもしれません。そこで当院では、小さなミスが起きた場合に、いつ・どこで・どのように、そしてどう対処したかをリスクマネジメントノートを作って記載しています。そのノートを使うようになって3年が過ぎ、記載した事によりミスが少なくなったことを発表しました。ミスは患者さんにとっても大きな問題になります。診療だけでなく、皆さんの目に触れないところでも、スタッフ全員で患者さんの負担にならないような努力をしていることを知って欲しいと思います。このような対策は開業医ではほとんどされていないようで、発表後の質問では大きな反響がありました。発表した佐藤君だけでなく、スタッフ全員が満足していたようです。

そしてお楽しみは、発表後の懇親会。横浜なら中華街と相場が決まっているように、中華街での懇親会となりました。特別メニューという事で、家内とスタッフで美味しく楽しい時間を過ごすことができました。懇親会の席上、仙台出身のため楽天ゴールデンイーグルスかベガルタ仙台の応援歌という要望がありましたが、残念ながら知らなかったので読売ジャイアンツの歌「闘魂込めて大空を～」を歌ってきました。次回は必ず地元の歌を歌うぞと、心に誓いました。誰か教えてください。

発表した内容は患者さんとの関係が深いので、このような発表が出来ることも患者さんのお陰なのです。発表はクリニックでの取り組みを紹介することが目的ですが、それだけではなく院長含めたスタッフ全体として一つの仕事に取り組む大切さを学ぶということもひとつの目的なのです。

院長の意外な一面(?)が見れたかも知れません。少しは楽しめたでしょうか。このように学会に参加できるのも、皆様のご理解のおかげです。ありがとうございました。

10月のお知らせ

・東北大学医学部学生実習 10月6日(金)
よろしくお祈りします。

・在宅休日当番

10月9日(月) 御利用ください

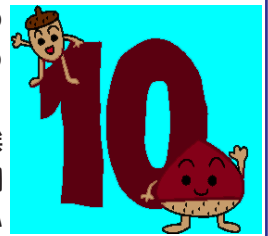
・栄養・育児相談

毎週水曜日 13:30～ 栄養士担当 無料



読者の広場

先月は14通のメールを頂きました。医療相談や治癒後のお礼が多かったのですが、北海道に転勤したMさん（本人の希望で匿名にしました）からのメールを紹介します。「かわむら先生、ご無沙汰しております。その後もお変わりなく、お忙しく、爽やかに、お元気でお過ごしてでしょうか？。実は4月に急に札幌に転勤が決まりまして、お礼の挨拶もできないまま今になってしまいました。〇〇が7ヶ月の頃広島から転勤して、その後約6年間お世話になりました。〇〇の時は勿論ですが、双子が生まれてからは冬場などは毎日顔を出していたものです。〇〇の風邪がうつるたびに、私もそのたびに風邪をひいて、クリニックに行く日が続いた時、「どうしてわが子だけ？どうして自分だけがこんな思いをしなくてはならないのだろうと…」「毎日クリニックに来ている自分が情けない…」というようなことを先生に言ったところ「大丈夫、子どもはこうして免疫をつけて大きくなっていくのだから」「おかあさんも無理しないように」というようなことをさらっと、でも温かく笑顔で言ってくださって、目がうるうるになりました。それからは、何だか毎日クリニックに通うのが恥ずかしくて、3人の母親なのに私はぜんぜん強くない！。しっかりしていない！。子どもを自分もいつも風邪をひかせてばかりいると、情けなくなっていたのですが、かわむら先生の「大丈夫だよ」「当たり前なことなんだよ」というのが心を軽くしてくれて、クリニックにも堂々と！？いけるようになったし、双子プラス1人の育児も自分らしくできるようになりました。このことはいつも先生に感謝していて、メールでもお礼を言いたかったのですが、面と向かってとても恥ずかしくて言えない状態でしたので、「いつか転勤してからで…」ということになり今になってしまいました。本当に温かい言葉ありがとうございました（先生は何気ない、いつもの診察のひとつコマ、だったと思いますが私には一生忘れられません。大げさじゃないですよ）。今も毎日怒鳴ってばかりでバタバタした毎日ですが、楽し〜い育児生活を送っています。」。素晴らしいメールで感激しました。本当にありがとうございました。そんなこともありましたね。懐かしい思い出ですね。親御さん達の多くは、同じ思いをして子育てしているのだと思います。子育てに少しでも、役立てればと思います。メールを頂いたことによって、自分の方向性に間違いは無いと証明してもらっているようです。メールにもありましたが、確かに面と向かっては言いにくいですよ。そのために、このアドレスを作っているのです。感謝やお礼だけでなく、クレームや要望も受けています。他の病院ではなかなかこうはいきませんよ。読者の皆さんも、上手に利用して下さい。



お母さんクラブの御案内

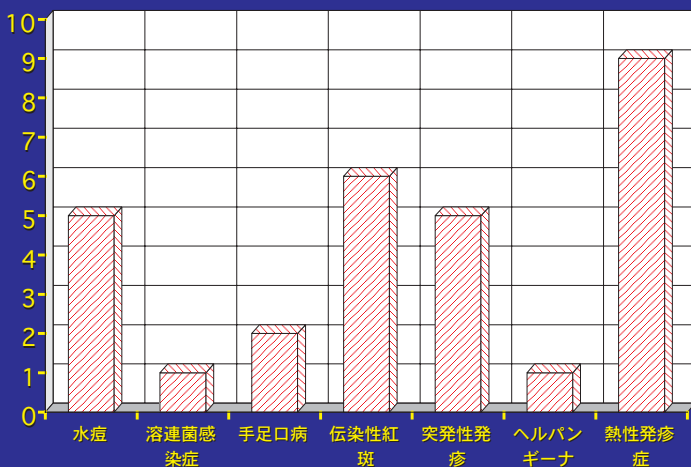
問題商法に御用心！！ 消費生活センター 荳森さん

10月12日（木） 14：00～ 福沢市民センター

マスコミでも報道されるように、様々な手口の詐欺まがいの商法が横行し、多くの人たちが被害にあっています。今回は仙台市消費生活センターのご協力を頂き、お母さん達をターゲットにした問題商法についてお話を頂くことになりました。具体的な事例をあげてもらい、その対策を考えてみましょう。会員以外の参加も可能です。参加希望の方は受付まで。

予防接種のお知らせ インフルエンザワクチンの予約がはじまりました。13歳以上は原則1回、13歳未満は2回接種です。
料金（1回）3150円（消費税込）

9月の感染症の集計



先月同様、特別に流行している病気はありません。水痘はわずかに増加。伝染性紅斑は横ばい。グラフには示していませんが、下痢が目立っています。また季節の変わり目のこともあり、喘息やゼーゼーするお子さんも目立ちます。

予防接種の変更に関するお知らせ

最近毎月掲載していますが、6月2日から予防接種法が変わりました。麻しん・風しん混合ワクチンが、次のお子さんを対象に可能になりました。

(1) 生後12ヵ月～24ヵ月未満

混合ワクチンだけでなく、単抗原も可能に。

(2) 小学校入学前の1年間

第1期接種者以外に、単抗原ワクチン接種者も含む。

ワクチンを受けないと入学できないとでも話ください。

経過措置接種(単抗原ワクチン)：仙台市民のみ

・生後24ヶ月～36ヶ月未満で以下に該当する方
先日の案内通り（任意接種）、費用は仙台市負担。

36ヵ月～5才未満は定期接種から外れ、接種は任意接種、費用は自己負担となります。

早めに接種するように心掛けて下さい。詳しくは院内掲示をご覧ください。不明な点はスタッフまで。

臨時休診のお知らせ

10月14日（土）午後休診となります。

学会参加と休日当番の代休もかねます。御迷惑をお掛けしますが、よろしく御理解ご協力をお願いします。

編集後記

ポリオの案内は載せていませんが、該当するお子さんは忘れずに。飲酒運転の事故が後を絶ちません。「飲んだら乗るな。乗るなら飲むな」を思い出しました。飲酒運転は大きな悲劇を生みます。肝に命じておきましょう。



院長著書「小児科医がやさしく教える 赤ちゃん子どもの病気」の再版にご協力を。お陰様で再版の方向に！ 詳しくは かわむらこどもクリニックHP(<http://www.kodomo-clinic.or.jp>)を